

マダコ



水族館へ行こう!
京都大学白浜水族館

26

ロビン・リグビー

水族館で展示生物が真夜中に行方不明になるという都市伝説のような話がある。いろいろな国の

ていても、窃盗は何カ月も続く。ある水族館関係者が業を煮やして水族館に何日も泊まり込み、ようやく犯人を見つけるところまで来た。別の水槽に展示している一匹のタコが夜な夜な這い出て獲物を捕っていたというの

べらいつき間があれば通り抜けることができ、タコには骨がないので、体の中で唯一変形させられない硬い部分は腕の付け根にある「くちばし」だけ。その大きさは一般に、目よりほんの少し大きい。重さ70gに達

の吸盤にある。これら感覚を駆使すれば、暗い水族館でも循環水を通して好物のカニやイカのいる水槽が分かるはずだ。白浜水族館でもマダコを展示しているので、ぜひ目をチェックしてどれくらい狭い所を通れるのか想像してほしい。どこかで魚が行方不明になったという話を始め

水族館の都市伝説

水族館関係者から聞かされた話だが、行方不明になったのはイカだったりカニだったりする。ドアが嚴重に施錠され

だ。残念ながら、タコの研究をしているわたし自身は同じような事件に遭遇したことはないし、本当の話かどうかも疑わしく思っている。しかし、タコはこの事件を起すという超能力を備えているのは事実だ。

する巨大なミンタコでさえ、排水のパイプなどを通ることができる。また、タコは夜のいくわづかな光で物を見ることもできる能力を持つが、さらに重要なのは、並はずれた鋭敏な触覚、味覚、嗅覚(きゅうかく)である。これらの感覚はタコの腕にある何百個も

る人がいたら、心から楽しんでほしい。話の最後には必ず「タコはなんて驚くべき、素晴らしい知的な生き物なんだ」と話を終えるはずだから。ちなみに行方不明事件を防ぐには、タコの水槽のふたに重い石を置いただけだった。

△されるマダコ
(水槽番号208)

タコは自分の目と同じ

タコの腕にある何百個も

(京都大学准教授)